



下関にある白虎隊慰霊碑



蛤御門



京都・会津小鉄墓

## 禁門の変

文久三年(一八六三)八月十八日のクーデターに失敗した長州藩士らでしたが、前にも増して多く京都へ終結したのです。そこで元治(げんじ)元年(一八六四)三月、会津藩の所屬となった新選組は、京都市中の巡回警備を強化したのです。六月五日、倒幕を画策していた過激浪士が集会をしているという情報を得た新選組は、会津藩に出動を要請しますが会津藩は動かず、夜十時半頃、単独で襲撃をしたのが「池田屋事件」でした。その働きによって近藤勇は、幕府から三十両と会津の「三善(みよ)し」長道の刀と酒一樽を賜っています。その陰には、会津藩の中間で強気を挫き弱気を助ける侠客(きょうかく)の小鉄がいて、俗に「会津小鉄」と呼ばれる十手持ちがいました。

池田屋事件の知らせを受けた長州藩では、京への挙兵を開始し、七月十九日、京都御所を目指して三方から攻めたのです。普段は閉し、往来をしなかつたことから「禁門」と呼んでいた門へ、長州藩の来島又兵衛ら二百名が進撃したのです。

会津藩では、御所内の禁門、六門と、水戸藩より警護を引き継いだ蛤御門を警護し、一瀬伝五郎らが防戦し、薩摩藩の協力を得て長州藩を撃退したのです。この時、会津藩では六十名、長州藩では二六五名が、蛤御門の変で戦死しました。

蛤御門の変後、落着きを取り戻した京都。幕府は、長州藩征討として元治元年(一八六四)七月、長州藩主親子がいた山口を攻めます。幕府軍の総督参謀は薩摩藩西郷隆盛で、長州藩の処分は「三家老の切腹と、脱藩浪士の始末、山口城破却」での

寛大な処分です。

寛大な処分です。慶応二年(一八六六)一月二十一日、京都の薩摩藩小松帯刀の屋敷で、坂本龍馬の仲介により、薩長同盟が締結されます。同年六月、將軍家茂は、再び約十五万人で長州藩を攻めますが、幕府軍は一枚岩でなく諸藩は形だけの参加でした。長州藩は、騎兵隊の高杉晋作らが実権を握り、約一万人で新式銃のゲベルやミニエー銃で装備し、甲冑と刀、火縄銃の幕府軍を簡単に撃破し、幕府軍は長州領内に入ることすらできませんでした。この戦い後、銃の時代となり鎧も着なくなりません。

同年七月二十日、將軍家茂が病氣により、二十一歳の若さで大坂城内において死去し、後継には、家茂が指名した田安龜之助ではなく、一橋徳川家の慶喜となったのです。さらに、同年十二月二十五日には、「京都守護職始末」によると、容保公は、孝明天皇が天然痘で危篤と聞き、二十五日に御所へ参内し、夜中に帰ると二十六歳で天皇が崩御したのです。死は、岩倉具視が仕組んだ毒殺説(ヒ素)とされ昭和十五年に日本医史学会で発表されていますが、今でも謎とされています。

容保公は失意し、「京都守護職始末」によると、慶応三年二月十二日、幕府に京都守護職の辞表を出しますが、英国公使が江戸で神戸開港を迫ったことから、神戸開港と長州藩からの京都防衛のため、四月二十二日再び、京都守護職を受けることになったのです。



池田屋跡